

Study regarding the Proficiency of Nursing Teacher and Stressor : Targeting Nursing Teachers at Special Technical Schools

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Sakai, Keiko メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/19489

平成 19年 2 月 20 日

博士論文審査結果報告書

学位授与番号 医博甲第 1860 号

学籍番号

氏 名 坂井 恵子

論文審査員

主 査 (教授) 稲垣 美智子

副 査 (教授) 坂井 明美

副 査 (教授) 須釜 淳子

論文題名 Study regarding the Proficiency of Nursing Teacher and Stressor -Targeting
Nursing Teacher at Special technical Schools-

論文審査結果

論文内容の要旨

本研究は、看護専修学校における看護教員の熟練プロセスを明らかにすること、熟練とストレスの関係を明らかにすることを目的に、30名の教員に73回の面接およびストレス測定を行い、熟練プロセスはグラウンデッドセオリーアプローチによる質的研究手法、ストレス測定は修士論文で作成した看護教員ストレス尺度を用いて導いた。その結果、熟練は「看護師から看護教員への移行に伴う混乱」に始まり「看護観・教育観の整理」「看護教育についての試行錯誤」を経て「看護教育論の確立」という熟練に変化していくプロセスで説明された。それぞれの段階におけるサブカテゴリーは看護師として中堅であった状態から教員になった混乱や患者と学生を複眼視する看護教員としての特殊性の自覚と困難性などが変化していく様相と解釈された。また熟練は、5年以上を必要とする示唆を得た。ストレスと熟練の関係では、熟練者は学生対応と研究に、非熟練段階者は「教員関係」「授業」に有意にストレスを高く感じていることを明らかにした。

審査結果の要旨

看護教育は大学化が進んでいるが70%が専修学校である。専修学校では職業人の養成が主目的である。専修学校の看護教員のストレスの高さはこれまでも多く報告されてきた。しかしながらその対応については、個人の努力に任されてきた。本研究は熟練という現象に着眼し、教育の質を高めるための教員の支援方法を、ストレスの内容および段階の見極めをもって提示使用とする試みとして独創性である。導いた結果は今後の看護専修学校の教員の成長およびストレス軽減に活用可能な結果として有意義なものと評価される。よって本論文は看護学における看護教育学の発展に寄与するものであり、博士論文としてふさわしく博士後期課程の学位授与に値すると判定する。